

福岡県米麦大豆生産改善速報 第4号

令和2年9月11日
 福岡県
 福岡県米麦品質改善協会

水稻の生育概況と成熟期予測

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	7月27日～9月7日 (43日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	28.7	34.1	25.1	281	290
前年差(比)	+1.2	+1.7	+1.2	139%	45%
平年差(比)	+1.8	+2.4	+1.8	118%	106%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

7月27日～9月7日の平均気温は平年より1.8℃高く、日照時間は18%多く、降水量は6%多く、高温・多照で経過した。出穂期は平年と比べ「夢つくし」で3日遅く、「元気つくし」で1～2日遅く、「ヒノヒカリ」で平年並～1日遅く、「実りつくし」で平年並であった。全穂数は平年と比べ「夢つくし」で10%多く、「元気つくし」で3～12%少なく、「ヒノヒカリ」で3～8%少なく、「実りつくし」で8%少なかった。今後の気温が平年並で経過した場合、成熟期は平年と比べ「夢つくし」で2日遅く、「元気つくし」で平年並～1日遅く、「ヒノヒカリ」で平年並～1日早く、「実りつくし」で1日早いと予想される。

3. 農林業総合試験場における水稻の出穂期、穂数と予想成熟期

調査場所	移植期	品種	年次	穂肥施用時		主稈葉数(L)	全穂数(本/m ²)	出穂期(月日)	予想成熟期(月日)
				カラー スケール	葉緑 素計				
農産部	6/10	夢つくし	本年	3.9	42.0	13.0	414	8.12	9.14
			前年比(差)	+0.4	+3.6	+0.1	122	+2	±0
			平年比(差)	+0.1	+2.5	-0.1	110	+3	+2
	6/19	元気つくし	本年	3.8	37.8	13.2	350	8.21	9.27
			前年比(差)	+0.2	+2.1	±0	105	+3	+2
			平年比(差)	±0	+0.1	-0.1	97	+2	±0
6/19	ヒノヒカリ	本年	3.4	37.2	13.6	366	8.27	10.7	
		前年比(差)	+0.1	+2.2	-0.3	117	+1	+1	
		平年比(差)	-0.3	+0.8	-0.1	97	±0	±0	
筑後分場	6/19	元気つくし	本年	3.7	39.5	13.1	372	8.19	9.26
			前年比(差)	+0.4	+6.9	-0.9	104	-1	-2
			平年比(差)	+0.2	+3.7	-0.3	88	+1	+1
	6/19	ヒノヒカリ	本年	3.3	33.6	13.5	364	8.25	10.5
			前年比(差)	+0.2	+3.4	-0.5	97	-3	-2
			平年比(差)	±0	+0.6	-0.2	92	+1	-1
6/19	実りつくし	本年	2.9	29.7	14.4	344	8.31	10.15	
		前年比(差)	+0.1	-0.7	-0.1	103	-3	-3	
		前5年比(差)	+0.1	-0.5	-0.3	92	±0	-1	

注) ①平年値は過去10か年の平均値。
 ②カラスケールは群落葉色値、SPAD値は葉緑素計 (SPAD-502) による上位展開第2葉の測定値。
 ③熟期は9月4日以降の気温が平年並 (過去10年アメダス平均) で経過した場合の予測値。
 ④この値は暫定値で、今後変更することがある。

4. 今後の対策（水稻）

（1）病虫害防除

病虫害は発生状況に応じて適切に防除を行う。特にいもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類は、ほ場での発生状況の把握に努め、適期に防除する。

台風通過後は、穂いもち、紋枯病、ウンカ類等が発生しやすいため、発生状況に応じて適期防除に努める。

（2）水管理

出穂期～開花期は最も水を必要とする時期なので、ほ場が乾燥状態にならないようにする。その後は、落水時期まで間断かん水を行う。

台風襲来等で強風が予想される場合は、深水で稲体を保護し、脱水による青枯れや白未熟粒の発生を防止する。

落水時期は収穫前7～10日頃を目安とする。早期落水は、登熟障害により収量、品質が低下するため行わない。

（3）適期収穫

収穫時期は出穂後の積算気温を参考に、黄褐色粳比率や粳水分を確認して決定する。特に本年は気温が高いため、刈り遅れにならないよう留意する。

5. 農林業総合試験場農産部における大豆（フクユタカ）の開花期

大豆の開花期は、7月16日播種で8月25日、7月30日播種で9月4日、8月6日播種で9月7日であった。なお、平年の7月10日播種の開花期は8月20日である。

播種期	開花期	前年（播種期）	平年（播種期）
7月16日	8月25日	8月20日（7月8日）	8月20日（7月10日）
7月30日	9月4日	8月31日（7月24日）	8月30日（7月24日）
8月6日	9月7日	—	—

注）平年値は平成22年～令和元年の10か年平均値。

6. 今後の対策（大豆）

（1）病虫害防除

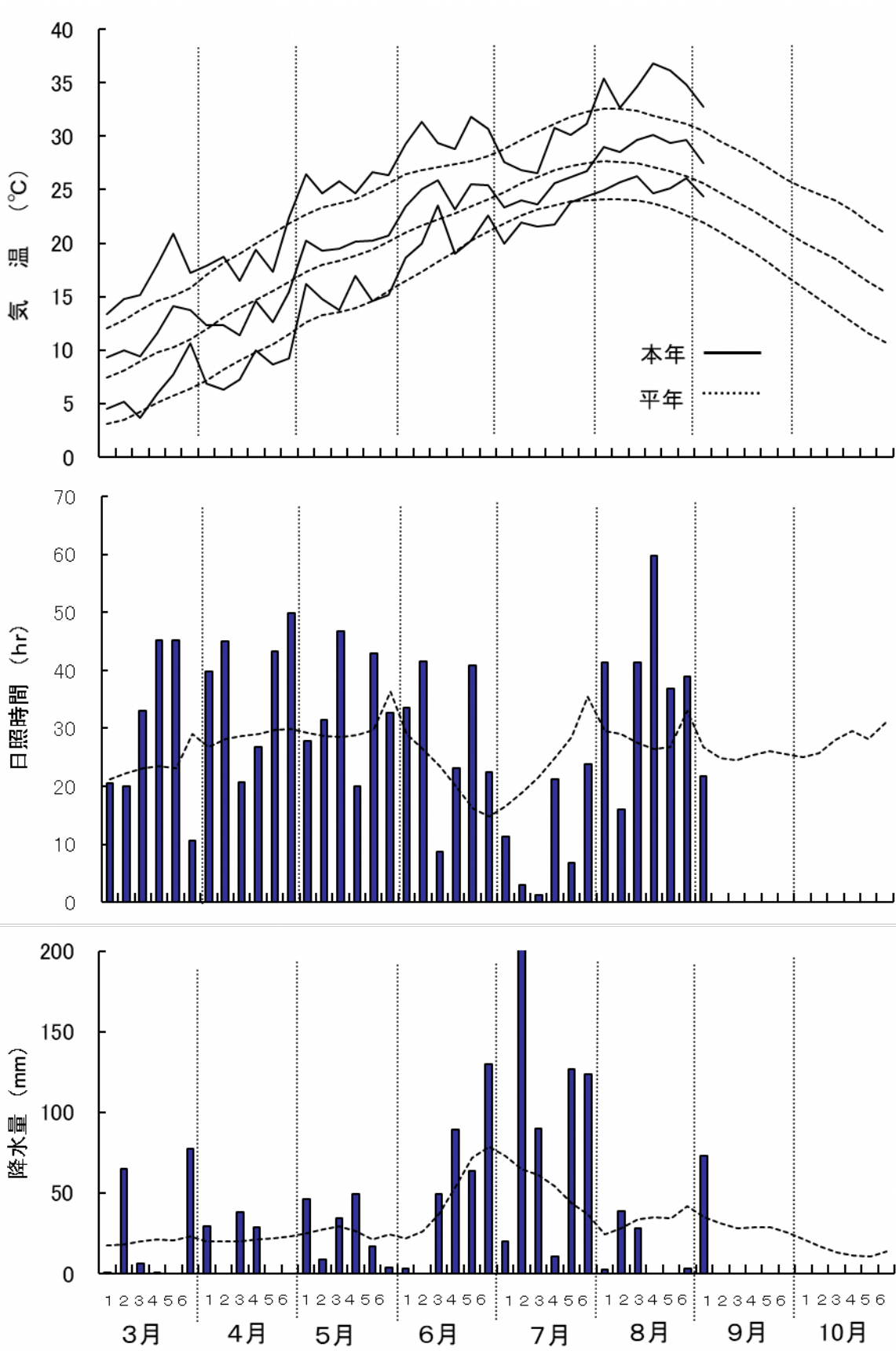
- ・ハスモンヨトウは、各地に設置されているフェロモントラップの誘殺数とほ場での白変葉の発生状況とを総合的に判断し、適期防除を実施する。
- ・カメムシ類と紫斑病は、開花後25～30日頃に防除を実施する。
- ・葉焼病の発生に留意し、発生に応じ防除を実施する。

（2）排水対策・乾燥防止対策

- ・降雨後に停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。
- ・降雨によってほ場内に停滞水がある場合は、本暗きよの栓をあけて排水し、再度、乾燥防止のために栓をしめる。

（3）雑草対策

- ・大豆の生育量が少ないほ場は雑草の発生が多くなるので、防除が必要な場合は早めに畦間処理除草剤を散布する。



2020(令和2年)夏作期間の気象 (太宰府アメダス)